

第5回土浦市立幼稚園，小学校及び中学校適正配置等検討委員会 会議録

1. 会議名：第5回土浦市立幼稚園，小学校及び中学校適正配置等検討委員会
2. 日 時：平成22年4月27日(火) 午後1時30分～4時
3. 場 所：教育委員会 2階大会議室
4. 出席者：
(委 員)水本徳明・完賀浩光・都賀和男・佐野光男・沖田幸代・箕輪勇介・説田賢哉
大塚 猛・笹本恒久・坂本喜久江・和田士郎・岡元孝子・近藤 修・中井川
功・川島一男・古徳洋一
(事務局)富永教育長・長峰教育次長・橋爪課長・石井課長・田中主査・塚本係長・関
口主幹
5. 公開非公開の別：公開
6. 傍聴人の数：6人
7. 開会のあいさつ
(事務局) 開会のことば
(委員長) お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。この委
員会もしばらく間が空きましたけれども、議題にありますようにアンケー
ト結果も出ました。それを踏まえて最終的な提言の作成に向けて本格的な
作業を進めていきたいと思っておりますので、どうぞご協力よろしくお願ひした
いと思ひます。
8. 報告事項
(委員長) これまでの委員会のまとめ、課題整理と今後の予定・プロセスの確認
(事務局) 第4回委員会のまとめ
(委員長) 会議録等の公開について、市ホームページで公開する旨を話す
(委員一同) 異議なし
9. 協議事項
(事務局) 「学校の適正規模等に関するアンケート」集計結果について説明
(委員長) 筑波大学研究室で分析したクロス集計結果説明およびアンケート全体から
見えてきた市民の意識のまとめ
(委員長) 以上のように、市民の方はそれぞれの問いに対して、こういう状態がいい、

こういう状態がいい…というふうに答えていただいている訳ですが、それを全部並べたときに、なかなかそれを全て満足させるようなあり方は難しいという状態になっているのではないかと思います。少し説明が長くなりましたが、今までのアンケート結果の説明を踏まえて、委員の皆さまにご協議いただきたいと思います。この結果を踏まえながら、今後の土浦市の小・中学校の適正規模・適正配置について、私たちの考えをまとめていかななくてはいけないわけですが、ご質問を含めて今の説明の中でお考えになったことや、ご意見をお願いしたいと思います。どんなところでも結構ですが、いかがでしょうか。

(委員) いろいろな角度から分析していただきまして、非常に納得のできる分析結果だったと思います。それとクロス集計の結果というところで、保護者と保護者でない方の意識について、差が見られなかったという結果が出ているわけですが、例えばアンケート結果資料3の11ページの、保護者とそうでない方の割合が16%と83%となっておりますが、これが例えば100%保護者の方に同様の質問をした場合においても、おそらく集計学的にはこういう結果になるのかな？というのをお聞きしたいのが一つと、これは間違いなく20歳以上ということで、大人の意識だと思いますけれども、これを子どもに置きかえて、いわゆる児童に、小・中学生にそういうことが教育学的に良いことか悪いことか、あるいは仮に良いとなった場合に、聞いた質問の仕方にもよりますけれども、聞いた結果、それを適正に答える能力があるのかどうかみたいところを、集計の学問的にどんなふうに捉えられたら良いのか、ちょっと教えていただければと思います。

(委員長) それについて、私の方からお答えしたいと思います。確かに、保護者と非保護者が数でいうと、200人対1000人ぐらいの割合になっておりまして、アンバランスではあります。ただ、200ありますので、それほど保護者の偏った人たちだけがたまたま回答したというふうには解釈しなくていいのではないかと思います。ですから、保護者の人数をある程度増やしても、それほど大きく変わることはないだろうと思います。

もう一つ、子どもに質問することですが、私も10年くらい前になりますが、相当大規模な調査をしたことがあります。全国の小・中学生5000人ぐらいに、どれぐらいの学級の人数がいいですか？というような調査をしたことがあります。結果としてどういうことになるかと言いますと、ほぼ自分が今いる学級の規模を答えます。それが当たり前だと思っていて、それ以外の状態を想像できないというのもあるんです。だから普通に我々が考えると、これは多すぎるだろうと思うような規模、40人いっぱいのクラスにいる子どもたちは40人がいいというふうに答える傾向があるんです。だから、ただ人数を聞いただけでは、多分、何か私たちの材料になるような調査というのは難しいのではないだろうかと思います。

(委員) 今の質問に関連したのを続けて質問してしまいますけれども、それって大人でも有り得るということはないのですか。例えば、今の小学校、自分の子どもが通っている小学校が30人だから、できれば30人とか。理想はあるけど現状が良いという結果から見ると、今の自分の置かれているところが良いんじゃないのかなみたいな。そういう回答をする人が多いのではないのかな？とちょっと思ったんですけれども。

(委員長) はい、それはですね、今回の調査ではちょっと確かめようがないところがあるんですね。学区の学校規模は分かっておりますけれども、各学校の学級規模というもの、あるいはそれぞれの回答者の保護者だったとして、自分の子どもが通っている学校の学級規模というものを聞いておりませんので分かりませんが、ただ、学校の規模によって答えがそれほど変わらないということは、保護者の目からすると、必ずしも自分の子どもが行っている学校の学級規模に影響を受けて答えていることは、必ずしも言えないのではないのかと思います。そういう意味では、21～30という回答が圧倒的に多いのは、いろんな学級規模を経験した大人がいると思いますけれども、それぞれの考えとして、そのぐらいのところが良いのではないのかというふうに判断しているということではないのかと思いますけれども。

(委員) ではそれに関連しまして。先日、新治中学校の入学式に行ってみりました。77名の1年生で、2で割りますと38人と39人。それからいろいろ話を聞きましたら、新治中に入らない、斗利出・藤沢・山ノ荘小学校の子どもたちが4～5人くらいいるんだろうというような話を伺いまして、現在の数からいきますと4名いますと81名になりますので3クラスになるんですね。ということは、この子どもたちが今1年生ですけれども、3年生になったら、38人と39人の子どもたち、大きな子どもたちですから一つの教室に入ったら、教室が狭くなってしまわないのかなと思います。要するに、公立学校に行かなかった児童がもしも入っていたならば、3クラスの中学校が編成できるのではないのかなと。そうなりますと、例え80人ですから20人ちょっとの数…30まではいかなかったと思いますけれども、そういうふうなことがありますので、できましたらやはり小学生は各地区ごとの中学校へ是非とも行って欲しい、というのが私自身の考えでございます。

(委員) アンケートの結果を見させていただきまして、私の意見とだいたい同じような意見だなと思って見させていただいたのですが、学校の配置で学校地区の変更とか見直し、小規模における通学区域の見直しが良いということも、私も意見として持っているのですが、地域の問題もあると思うのですが、そういう形でできるのかどうかということもお聞きしたいのですけれども。

(教育長) 学区の見直しというのは、やらざるを得ない状況になってきていると思う

んです。ただ、例えば、前から話題になっている部分で、学区の見直しをして小規模校が解消されるかということ、必ずしもそういうのは難しい。例えば、宍塚小学校を例に出して申し訳ないのですけれども、宍塚小学校区では、そんなに離れてはないところに虫掛地区があるんですが、その地区の子どもたちの人数は、私が土小にいたときだいたい30人くらいだったわけですから、この地区の子どもたちが土小から宍塚に行ったとしても、宍塚小は適正規模になるような人数ではない、ということもあります。ですから、学区の見直しだけで適正規模・適正配置になるかということ、それは非常に難しい部分もある。しかし、保護者の意見にもありましたように、どっちに行ってもいいという、周辺の境目の学校地区がありますから、そういうところはやはり保護者の希望もある程度入れて、自由選択みたいなことをやらざるを得ないのかなというの、こういうふうな地区ではやっておりますので、見直しなどは必要になってくるだろうと思います。ただ、上西小の場合には、学区の見直しをしても、児童を増やすことは、現状の地域で考えると難しいのかという感じは私自身しておりますけれども。うまく見直しをして適正規模になるように、すればいいんでしょうけど、大変難しいなという感じが客観的にします。

(委員) 今まで確かに宍塚小学校というと、人数がものすごく少なくて、人数の問題でいうなれば、今までの行政の、政治自体の、開発自体がかなり偏っていた気がします。お金の入れ方とか。土浦駅前辺りにあれだけお金を入れて、土小辺りの人間が増えるというのは納得できるのですが、この間聞いたときに10年規模で一応見ているということだったもので、今までの方が多分、宍塚小は開発も遅れていたし、お金も投入されなかったから。地帯的にも農地が多いので、それなりに開発が遅れていたんで、先々も教育長が言われるように、何かのイベントみたいな大きなものがないと、多分変わってはいかないと思います。

教育的なもので、この場から話すようなことがあれば、確かに少なくて、多分今のまま現状でいくような気がしますけれども。あとはお金と政治がどのように変わっていくのか、ただ今までの10年間というのは、お金も投入されなかつたらうし、人間も確かに増えないような状況、まあ地域的な問題ですから、多分先々も下水道の関係と、行政の側であるのですが、なかなか難しいところがあるような気はします。

(委員長) 教育の範囲を超えて、開発政策というか、そういうことに関わってきてしまうようなところがある、ということですね。

(委員) そうですね。お金の投入によって、人口の増えるところとそうでないところとありますから。もしくは、そういう形になれば、今度は教育の場でもなくとも、政治的なものが絡んできてしまうような気がして、難しいような気もします。

(委員) 土浦でどうするかといったことは別として、アンケートの感想といいますか、適正配置というものの客観的な見方として、どのぐらいのことなんだと、皆さんが常識的に考えている適正配置とはどんなものだ、といった意味で非常に良い背骨が見えたというか、皆さんこの辺りのところを適正配置といったときにお考えになるんだな、というところが今回のアンケート調査で良く見えたかなという気がしています。

これをまた土浦ででは一体どうするかといったことは、これからの議論だと思いますが、良い指針ができたのではないかと思いますし、こういったものを、充分、自分の頭の中に入れて、これからの指針、そういったものの作業に入ればいいのかといったところで、大変良い準備といいますか、これから我々が作り上げていくものの良い準備指針みたいなものができたのではないのかという気がしています。

(委員長) 先程の通学区域の問題もそうですけれども、一般的な意識として、一般的なお考えとして、アンケートに答えていただいていたわけで、それを具体的に、では実際に土浦市の中でどうかとか、具体的にこの学校の校区はどうかということを見ると、また別の問題が生じてくるというように、なかなか現実的に難しい面もあるかと思いますけれども、とりあえず一般的な意識としては、このような実態が明らかとなったということです。それを私たちがそれぞれどう踏まえていくかということだと思えます。他にいかがですか。

(教育長) ちょっと感想を言わせてください。実態調査から私自身が感じたことですが、適正規模の考え方というのは保護者であろうが、年配の方であろうが、おおむねある程度の人数が必要だということでは私も予想通りでした。ただ、じゃあどうするかという意見のところでは、いろいろ面白いなと思ったのが、学区の見直しをすれば自分の学校は廃校になることはないから、学区の見直しをして何とか学校を残して欲しいという思いは、地域の方は非常に強いだらうと。それは昔も今もきっと変わらないのかなという感じがいたしました。学校の学区の見直し等でという方が43%、最低限が33%、現行のままが約2割いらっしゃいますから、そういった人の思いを今後どうしていったら良いのかなというのが、率直な私の感想です。

(委員) アンケート結果について、今、委員の方からありましたけれども、学校に21~30人の学級編成となりますと、文部科学省の定めと大分違いがあるんですね。今日、アンケート結果の意見をいろいろ読んでみたのですが、この中にちょっと恐ろしいというか、むしろ先生方に考えていただきたいような意見も、結構ちらほら見えた。今の教師の能力からいって、このくらいが適当なんじゃないのかなという意見が2~3見えているんです。この21~30人という回答に関しては、私の予測と若干外れたんですけども、じゃあ1学級のクラス編成、人数、文部科学省の制定はどうなっているの

かなど。時代ということを考えて、もう少し今度は国の方も、1学級のクラス編成・人数の法律改正であるとか、何か動くのではないのかなど。住民の要望がこうであったとか、それはともかくとして、ちょっと何か指導者に対する、期待外れな意見があったということ、私が気づいた点として申し上げておきます。

(教育長) 私はそういう受け止め方ではないのですけれども、国の基準は1学級40人ですから、41人いれば2クラスということになるわけですが、最近の傾向としては、やはり40人は少し多すぎるのではないかということから、少人数教育ということが盛んに言われるようになってきました。本県においても1～2年生は『楽しく学ぶ学級づくり』ということで、1年生3クラスで36人以上のクラスが3クラス以上ある場合には1学級増やして4クラスにするというふうな手立てがなされました。今年度から県においては、これを3年生から4年生まで拡大をする。さらに中学1年生においても、それを適用するというふうなところで少人数教育という考え方が、かつてよりは多くなってきているだろうと。やはり1学級あたりの人数は、保護者の皆さまがおっしゃるように30～34人前後が良いのではないのではないかという考え方が、保護者の方々、特に若い方々はそういう考え方だということ、先程、委員長がおっしゃられましたけれども、そういう考え方が主流になってきているのではないかと思います。

(委員長) 学級規模については、文科省の方でもいろいろ関係者からヒアリング等をしているようですね。職員定数の改善と関わって、学級規模をどうするかということを検討しているようですが、まだ具体的には見えてこない状況なのだと思いますが、それでも40人というのは検討しなければならないという形で、検討が進んでいるように思います。

他に何かございますか？これから議論を進めていくうえで非常に大事な基盤になるところですので、できるだけご意見いただきたいと思うんですが、簡単にご感想で結構ですのでいただけますか。

(委員) 少人数教育が良いということなんですよね。やはりそうすると、小規模校にいて先生が目が届いて十分に教育してもらえるととなると、大勢のクラスでは、どうのこうの…ということになるのですが、私事になってしましますが、私なんかの時代は50～55人くらいのクラスが8クラスあったんです。男性が4クラス、女性が4クラス、いまだに同窓会をやっているのですが、子どもからすると50人いても40人いても勉強は、本人が一生懸命やっていたら伸びたんです。それで先生が一人ひとりと言うけれど、一人ひとりの教育をそんなに親が望んでいるのでしょうかね。アンケートを見るとそうみたいですが、だから親が先生にお願いするのは当たり前なのですが、その辺はつきり、少人数なら良い、大人数は先生が目が届かない、教えが届かないから困るんだというその辺が、どうもちょっと理解できないです。

(委員長) 先程、少人数教育というお話が教育長の方からありましたが、少人数教育をすすめていきますと、場合によっては手を貸しすぎるのではないかなという意見も出てくるのも確かにあるんですね。

(委員) 私は小規模校出身で分教場育ちです。斗利出小学校に行く前は、沢辺の分教場に1年から4年まで行って、私たちは5年・6年と行って中学校（に進学）ということです。ただ、分教場の子どもが本校に行きますと、ちょうど鳥小屋に行って、後から入ってきた鶏と同じ状況なんです。どちらかというと、突かれる方ということです。ところがうちの方の地区は、人数的には多いんです。44人のうち14人が同級生ですので、後から入った鶏は14人ということになります。そのうち2年くらい経ちますと勢力が逆転しまして、こちらの方が勢力が上がっていくというようなことで、中学校まではゆっくりとしたことができたのですが、小・中通して1クラスで過ごしました。目が行き届いてくれたというお話でしたけれども、実際に高校に行ってビックリしたことは「何でこんなに人が多いのかな」と。特に一中から来た連中がものすごく多いんですよ。80人くらいいたんじゃないかと思うんですけど、我々は全部で4人しか行きません。委員さんの場合はもっと多かったと思いますけど、小さな学校から行くと何となく引け目を感じます。けれども、その中でもやはり1年間送りますと、自分なりの地位が築かれていきますので、最終的にうちの2人の弟たちはそれぞれ1年生から分教場で過ごしてきましたが、無事に立派に退職したのもおりますし、今農業をしている弟たちもおりますので、人それぞれ、先生がおっしゃったように、やはり自分で努力すればいいのかなと。

あともう一つ、通学距離が私たち沢辺の方は斗利出小まで行ったわけですが、だいたい4kmぐらいあったと思うんですけど、その後、山ノ荘小の方に行ってみますと、だんだん友達も足が遅くなってきて、我々の頃、斗利出小に行った連中はみんな駆け足が速いです。リレーメンバーのうち、4人のうち3人がうちの方です。ですからやはり遠いところの良さもありますし、悪さもあります。それで中学校に行くようになりましたら、高岡の外縁になりますと中学生は自転車だっていうんですね、あの頃、自転車は嬉しかったと思いますけれども、実際に子どもは、小学校はその先2km歩いて行ったわけ。筑波線を越えて、ずっと先まで行ったわけですので、できましたらここでいう適正規模の3クラス以上あるいは30人以上というのがあるのかなという感じがします。

勤めてみて一番気になったのは、中学校の方が多かったのですけれども、東小に行ったときに、いきなり6年の担任をさせられたのです。「お前は中学校から来たんだから、6年生をやれよ」ということで、行きましたら、言う事をきかない子どもがいっぱいいるんですよ。学校内の学級編成の仕方がまずかったと思います。2年間連続担任ということなんです。です

から私は6年生をもっても、前の先生が5年生をもった後の1年になるんですよね。前の人の癖が残っていて、本当にやりづらかったです。ですから、その次の年から東小はすべて毎年クラス編成をすることになりました。そうなりますと、本当に多くの子どもたちとの仲間の交流というのはあったのかなという感じがします。あとは、上佐谷小学校に行ったときなんですけど、小さい学校ですけれども、その年がちょうど全校開始の養護教諭と会計の担当の先生が入りました。ということは、校長・教頭・教務主任・養護それから庶務というのが揃っています。あと担任が6名おります。そうしますと校長一人で何をやってるかといいますと、どちらかというとな花作りが好きだったもので、花をやっておりました。すると、休み時間に子どもたちがやって来て「校長先生、いいな～勉強しなくて花作りやってるんだから」ということを言われましたけれども、お前は勉強中だよと。その時の6年生には委員さんの娘さんもいたという感じもしますけれども、やっぱり小さい学校でもできれば大きな子どもたちと一緒にやるということも。ただし小さいのは小さいなりにバレーでも野球でもソフトでも、小さい学年から早くやっているのがいいのかなという感じがします。東小学校のときには5年・6年で市の水泳大会があるのですけれども、到底かないません。ですから3年生からメンバーを決めまして、3・4・5・6年とやれば強くなるんですよね。上佐谷小の場合も同じようなところですので、大規模と小規模と良さ・悪さがあるんじゃないのかなと。以上今までの感想でございます。

(委員) やはり、どこに自分の基準を置くかで大分違ってきてしまうのかというのがまず第一で、どういう配置にしたら良いのかというのは、私には分かりません。ただ、今学校関係で、カウンセラー的な相談員というか、土浦市内と市外でやっているんですけれども、やはり小規模のクラスですとなかなか、仲良くするというか、強い子が上にたってしまう傾向があるような気がするんです。そうすると、ある程度的人数があった方が、何人か強い子が出てきながらも、その中でも子ども同士で解決していけることが多いかというふうに思います。なので、私としては30人ちょっといた方が。今、20人クラスを見ているんですが男女10人くらいずつですと、問題があった場合その女の子同士、男の子同士ではなかなか解決に至らないんですよね。それが30人くらいいると、何人か強い子が出て、それがいい、こっちはいいとってお互いに意見を出し合いながら、じゃあどうしたらいいかということで、いろんな意見を聴けるということになっていくので、問題が起きたときにはそこがいいのかと。それから勉強のことですけれども、少人数で先生が一人ひとりに目が行き届くということに目を向けるのではなくて、できる子どもが分からない子どもに教えてあげるといった指導法を勉強の中に、クラスの中に入れていけば、クラスは全体的に伸びていくよ

うな気がします。人に教えることができ、自分のものになるということが勉強だと思しますので、やはりクラスは30人くらいの方が良いような気がします。

(委員) アンケートの結果で、小・中学校の役割ということで、小学校も中学校もそれぞれ皆さんが考えていることが、災害の避難場所ということ、また2番目における地域の伝統文化であるとか、要するに心のより所だと。義務教育の小学校・中学校、特にその中でも小学校というのは、地域のまとまる一つの中心地になっております。私たちの地区には桜があって、それが運動場の真ん中にあるから、何であんなところに桜があるんだろう？と言う人もいますが、それぞれ歴史の中でそうなった。しかし、あの‘桜’が我々の地域をつないでいる。あそこで行われる行事をもってつながっている。これがもし、小さい(規模の)ところの人が、学区が編成されたり、統合されて今の場所から離れるというとき、今市内でもやっているまちづくりとか、そういうことも配慮に入れて、その地区または地域がまとめられるよう配慮の中に入れてお考えいただければ、私の立場としては、ありがたいと。そのようにご配慮願いたいものだと思います。

(委員) いろいろアンケートを見させていただいて、自分が保護者の立場として、本当にこの通りだなというのを感じました。先程から話に出ていましたけど、自分の子どもが学校にいる、それが一番いいのかなというのが本音だと思いました。小規模のところはダメとか、そこには行かせたくないという気持ちもないです。そちらの学区であれば、その地区で子どもを育てて、地域と密着して先生方とも十分に触れ合って、そういうふうにしていきたいと思えます。やはり親子の関係も大事だなというのを今すごく感じていて、学校側だけをお願いしているお母さんたちが私の周りにもいるのですが、お家でのしつけではないですけども、そういうところをおざなりにして、学校とか塾であるとかそういうところにすべてお願いしているのが見受けられるので、もしかして私もそうなのかもしれないのですが、そうではなくて家庭とのやり取りがあれば、どこの学区にいても、どこの学校でどの先生とでも、どのお友達とでもやっていけるんじゃないのかなということを感じていました。

21~30人という適正の人数なんですが、たまたまうちの下の息子が、1年生に上がりまして、36人の1年生のクラスになって、ちょっと驚いたんですけど、息子の話を聞いている限りでは、全然問題ありません。40人だろうと30人だろうと本人は変わらないと思います。逆に、5年生になった娘の方が32人のクラスで少ないんじゃないのかなという感覚に今ちょっとなっています。なので、別にこの21人というのは、先程お話もありましたけれども、少ないような感じがしてしまいます。30人前後がベストなのかなという思いはあります。

学区編成の問題が先程ありましたが、この適正配置のことで、やはり学区の問題はお母さんたちの間でもいろいろ出ていまして、どうしてこの子がこっちに行くんだらう？と、あちらの方が近いじゃない？というのはやっぱり多いので、その辺も一緒に検討委員会で考えていけたらありがたいと思っております。

(委員) 資料3の2の後ろに載っている自由記載一欄ですが、まだ全部は読んでないのですが、これが一般的なご意見なのかなと思いました。いろんな意見があって、なるほどというのが、少ない学校の方の意見が、ああこういう意見なのかと。例えば、多い学校の親の意見ではこういう意見もあるのかという。ですから多いから良いとか、少ないから良いというのではなくて、学校の環境などにも多少左右されるのではないのかと感じました。個人的に言えば、うちの近くの小学校は、前は800人くらいいて、今はその半分の400人。当然ながら、その上に行った中学生も少なくなっていて、勉強云々は別として、子どもたちからよく聞くのは、部活動に入る人が、どんどん減っている、要は全体人数が減っているわけですから、部活の数が変わらなければ各部活の人数が減ってしまうと。そうすると例えばバスケットボール部なんていうのは、5人いないと試合ができないのですが、4人しかいない。その度に一人借りてきてやったりとか、あまりにも少ないと廃部になったりとか。ですから、学校の人数というよりも、配置もそうなんですけど、少子化が今になって社会的問題になっているんだなというふうに感じました。

(委員) 私はアンケートを見てショックを受けているのですが、ご意見の中に「下小のようなマンモス校では特別な指導(が受けられないのでは…)」とありました。私は3月まで下小の校長をしておりましたが、1年生は5クラスありました。1クラス30人。全体はマンモスでも1学級の人数は変わらないし、教師が見ている子どもの数も変わらない、一生懸命やっていることも変わらないということで、マンモス校だから…ということについては、それ程感じない。1クラスの数としては、やはり適正な数はあるのかなと思います。やはり30人くらいというのは、保護者の立場になってみると、学力向上というものを考えた場合、一人ひとりに分らない子、本当に能力差の大きな段階で、小学校でも上がっていきます。それに応じて手隅の入れたことをお願いするとしたら、先程ご指摘いただきましたけれども、今の教師で、たくさん子どもたちのいろんな価値観を持った子どもたち一人ひとりに応じた指導をしていこうと思うと、やはり20~30人くらいが適切なのではないか。かといって、社会性の発達を考えていったときに、今、社会的にも問題になっているコミュニケーション能力であるとか、人との関わりであるとか、そういうものを考えていったときに、あまり少なくてもいけない。一人対一人でやってもらった方が、学力は向上するでしょう

けれども、それで育たないものが、学校でしかできない体験を通して学ぶことがたくさんあるとしたら、だいたい30人くらいなのかなという印象を皆さんお持ちなんだろうと、これを見せていただきました。ただ、誰のために適正な規模なのかなと、学校規模のことを考えてみると、確かに人数が少なくなってくると教員の数が少なくなってくる。単学級だと教諭の数が7人しかいなくなってしまう。そうすると、さまざまな出張関係が出てきたときに、教師が出て行くことが多くなると、子どもと向かい合う時間も少なくなってしまう。大規模になると今度は、たくさん子どもたちを目の前にしますから、自分のもっているところだけで、全体が見えなくなってしまう。一人ひとりに手隅の入った教育ができなくなってしまう。大きな学校と、小さな学校とそれぞれ教師にとっても適正な、養護教諭という先程お話がありましたけれども、養護教諭の人数が少ない学校であれば、一人ひとりの子どもの特徴をよく踏まえて、心の悩みでも体の悩みでも、何でも適切に関われる。親御さんも分かっていますからね。大きくなってしまえば、保健的行事をこなすだけでも大変になってきてしまいます。それでも養護教諭の先生方は800人の子どもがいようと何だろうと、一生懸命みている。でも、それはその教諭にとって負担が大きいし適正ではない。やはり適正ということを考えてときに、いろんな視点、子どもにとって適正なもの、それから地域の方々が少ない方が良いといっても、教師にとってみたり養護教諭にとってみたり、いろんな者の立場から適正というものを考えていかなければいけないんじゃないのかなということ、今までの資料を読ませていただいて、アンケート結果等を見させていただきながら、考えていかなければならないと思っております。

(委員) 今、脇で聞いていまして、さすが元人事課長、すばらしいことをおしゃるなど感銘をお受けしました。私は自分の経験上で話していきたいと考えております。中学校、結構あちこち行きましたけれども、1学年2学級、4学級、6学級、7学級とやりました。私にとって1番良いのは、中学校は4学級が1番やりやすかったです。といいますのは、あまり多いと子供たちを全部覚えられないんですね。4学級ぐらいですと、だいたい覚えられます。少なすぎますと、やはり2学級のときに一番みじめなのが、中体連の総体とか新人戦なんですね。あそこで小さい学校は自信なくすんです子供が。逆に、大きすぎると出られない子供が多いんですね。四学級ぐらいですと、ちょうどいい自信をつける。そうすると学校がどんどんどんどん活発になってくるんです、子供たちが。当然学力も明らかに伸びてきます。そんな経験をしましたので、私はどちらかというと中学校の場合には4学級が良いのかなと。そんな気がしてなりません。また、中学校の学区なんです、私がいた学校で一番遠い子で学校から6.5kmという子がいました。毎日自転車を通ったんです。家の人は全然送り迎えしません。女

の子ですが、6.5kmを3年間通うというのはすごい精神力だなと思いましたけれども、まあそれは特別な子だったのかもしれませんが。遠すぎるなと思いました。私もその頃は車で走っていて、こんな遠いのかとビックリしていましたが。経験上、4km超えると辛いなという気がします。あと、小学校なんですけど、1学年2クラスの学校と、3クラスの学校を2つ経験しました。やはり、私にとっては3クラスの方が良いのかなという気がします。と言いますのは、いろいろなこと、行事をやる場合も3クラスですと上手く分けられるんです。子どもたちも、1学年の1学級の人数がほしい30人、32、33人、その辺に落ち着いてきます。先生にも個人差があるから何とも言えませんが、実際学級を担任する先生にとっても34~35人が一番良かったです。競争をあまりさせてはいけないと、ちょっと前までの教育では言われていましたが、上手く張り合わせればどんどん伸びてくるわけです。委員さんが先ほどおっしゃったように、できる子をできない子に付けたらいいんじゃないかということ、実は「学び合い学習」という方法がありまして、それを上手く使うとどんどん伸びていくというのを私も経験しております。そのためにはやはり33~34人は必要になってくるということで、私はその人数を教えてても、実際に学校を運営してても合った人数なのかなと。ですから都和小が今自分に合っているんじゃないかと考えております。

(委員) このアンケートを読んでもまして、私は問2の、問題に答えた年齢の方が20代から40代までが38%、それから50代から60代・70代以上というのが62%、この年齢のところを見まして、私大変驚いたのですが、要は学校に関わっていない親がこれだけ答えたというのは、自分の子どもに関わりある問題について、親がいくら忙しいとは言え、この問題に答えてこなかったというのがちょっと不思議に思いました。

それから、複式学級の間16のところなんですけど、良いと思っているのが24%、あまり良くないが49%、良くないと思うが26%で75%ということ、やはり複式学級は皆さん望んではいない。ですからこの適正配置を望んでいるのかなと思いました。このように思いました。まあ人数的には、学級の人数は、やはりこのアンケート結果のとおり21~30名、まあほしい30名くらいがいいのかなと私は思っております。

(委員) 先ほど通学の問題で、アンケートの中に、自転車通学で車すれすれの所を走っていると、父兄としては毎日非常に心配だというアンケート回答があったんですけど、先ほど都賀先生がおっしゃったようにやはり6kmはちょっと…6.5kmは例外だと思いますが、距離的には自転車通学であっても3km以内ぐらいのところ子どもたちをまとめていただければ、ありがたいと思うんです。それで先日、第五中学校なんですけど、やはりほとんどの子が自転車通学だということで、自転車に反射材を付けることで対応すると伺

いました。それで、子どもたちが自発的に目の前で反射材を付けてくださったのでとても驚きました。「とにかく反射材を付けて気を付けるんだよ」、「学校帰り遅くなる時、夜道は本当に暗いから気を付けるのよ」と言って別れたんですが、先日高校1年生が大型トラックに後ろから引っかけられて即死しましたね…。この前、交通課長さんにも言ったんですが、自転車で走っていても後ろに目が無いですから、車道と自転車道が分離してない所、またはほとんど無い所を通学する子どもたちは、本当に心配なんです。ですから、車を運転する方にも十分に言ってください。子どもたちの姿を見たら本当に気を付けてくださいね！ということをお話にもお願いしたんです。というわけで、通学などもせいぜい3km以内…2km以内というのは無理かも知れないので、3km以内ぐらいで登校できる範囲で子どもたちを学校の方へお願いしたいと思うんです。

(委員長) 他にご意見ございますでしょうか。

いろいろご意見ありがとうございました。前半は主に、学級規模の話が多かったと思うんですけど、一方でアンケートの結果からしますと、学級規模はある程度小さい方が良く、ところが、学校規模に関してはやはり学年数学級・2～3学級・3～4学級が良いと。しかも通学距離は短い方が良い、というふうになっておりまして、これはとても難しい課題を私たちとしては突き付けられたような感じになっているわけです。しかも、先ほど、お二人の先生からお話があったように、学校規模の問題は教育活動の様子にも関わりますし、例えば養護教諭という規模に関わらず、基本的に一人職の問題というふうなこともございまして、さまざまな問題が関わってきます。そして地域のあり方、地域によっての学校というもの。また、今の通学路の様子なども、単に学校の規模のことだけが配置の問題じゃなくて、通学路そのものの安全性とか道路の安全性とか、施策の中の教育を越えるような課題ともつながっている。というように非常にそのさまざまな要因と関わってきてしまいます。この委員会が、そのようなさまざまな要因と関わる問題を全て解決するというようなことは出来ませんので、私たちの委員会としては、やはりその学校の規模と配置の問題についての原則をはっきりさせるということだと思っております。その際に、今回のアンケートで示された市民の意識を踏まえていくというふうなことだと思います。それで今日、ご意見たくさんいただきましたので、今後、この委員会としての提言のまとめに向けて事務局と相談しながら、どのような原則を打ち出していくのかを考えて、また委員会の場で委員の皆さんからご意見をいただきながら、中身を作ってまいりたいと思います。

それでは、議題1の審議事項は以上で終わらせていただきたいと思います。続きまして協議事項2の「土浦市立幼稚園の適正配置の考え方について(案)」に対するパブリック・コメント実施結果について事務局よりお願いし

ます。

(事務局) 「土浦市立幼稚園の適正配置の考え方について(案)」のパブリック・コメント実施結果について、提出された意見の要旨およびその意見に対する委員会の考え方を説明

(委員長) ありがとうございます。今のご説明についてご協議いただきたいんですけども、まず、今のパブリック・コメントのまとめ方と、考え方、回答の部分、これについて何かご意見・ご質問ございますでしょうか。この4件出された意見に対するこの委員会としての回答ということになって公表されますので、私たちの責任のもとで回答するということになります。そういう意味でいろいろとお気づきの事があれば、ご発言いただきたいと思えます。いかがでしょうか。

(委員) 市立幼稚園で試験的に3年保育を導入できないかという意見に対して、市の意見としては2年保育を継続するということが適当でありますと書いてありますけれども、これは、試験的にでも3年保育というのは全く考えていないということなんですか。

(委員長) 事務局として今のところ何かありますか。

(事務局) 現段階では、ここに書いてございますように試験的にも難しいと。当面は2年保育を継続していきたいと。ただ、今こちらにも尚書きで書いてございますけれども、国で現在、幼稚園については文部科学省、それから保育園については厚生労働省等で縦割りになって2元的に幼児教育・幼児保育を実施しております。その辺りの問題点・課題を見直す必要があるということで、マスコミ報道等によりますと、見直し検討のための組織を立ち上げて、年度内に一定の結論を得て、11年度からはこれはあくまでもマスコミ報道ですけども、幼保一元化に向けて進むということが言われております。ですから、こうした国の制度改正を見守りながら、もし、幼稚園についてもそうした保育年数について変わってくるということがあれば、その時点で改めて検討をしたいということでございます。

(委員) まず一番初めのですが『意見に対する考え方』と書いてあるので、考え方だけ書いてあれば私はいいと思いますので、最後の「従って原案の通りとさせていただきます」の一文はどうかかなと。そこまで結論をとるかそんなことまで言及しなくても良いのではないかなという気がします。

あと裏側の一番初めで、私立幼稚園に人気が集まっていることなどが基本的な原因だということが書いてあるんですが、私立が市立よりも人気があるという点は、前に書いてあるこれ以外のことは無いんですかね。それが結局、時間延長などの預かり保育ということが一つ、音楽・体操教室の課外活動などをやってるからといったこの2つの理由で、私立の方が人気なんですということですが、市立よりも私立の方が人気がある理由としては、この2つ程度なのかな…例えば先生などから少しお話をいただいて、実

はこういうところがあるから市立よりは私立の方が多分人気がある、ということが加わっても良いような気がちょっとしました。

それと、2番目ですが、求められていることは、一つは入手しやすい何かしらのより一層の方法というところと、あともしかすると募集のチラシの内容的なことも、例えばよりビジュアル的に見やすいとか、そういったことも少し求められているのではないのかなといった気がするんで、そういう意味ではチラシも多少内容的なものも工夫したものすとか、対応できる方法をちょっと言及した方が、求められているものに対する答えとしては宜しいのかという気はしました。

(委員長) 今、大きく分けて3点、1点目はナンバー1の意見に対する回答で「原案の通りとさせていただきます」というところを削っても良いのではないかということ。そして裏の方で、1点目が私立幼稚園の人気があることに関し他の要因があるのではないかということ、もしそれがあればここに書き加えた方が良いのではないかというご意見。それで3点目が、逆に市立幼稚園に入園させていく際の子どもたちの集め方、その辺を積極的にやっていく方向性などを今後検討していくということを書いても良いのではないかということ。そのようなご意見だと思っておりますが、いかがでしょうか、事務局の方としてこの点何かございますか。

(事務局) まず1点目、資料1のおもて面の方ですけど、この点につきましては、あえて「原案の通り」ということを書かせて案としていただいたわけなんです。と言いますのは、パブリック・コメントでいただいた意見について考慮すべき場合は、その内容を、今回で言えば幼稚園適正配置の考え方についての案に盛り込む必要があるかで、その辺を明確にするために、こういったことを一応案として書かせていただいたわけですけど、考え方としてはそこまで踏み込む必要はないと。表現的にちょっと蛇足だということであれば、この部分については皆さまのご協議で取り扱っていただければと存じます。

(委員長) はい、という事務局からのお答えでしたが、どうでしょうか、まず1点目の「従って原案の通りとさせていただきます」という文言についてはどうですか？削除した方が良いというご意見が他にあれば削除する方向で考えますが。特にあの削除というご意見が他になければこのままの形でこのところは宜しいでしょうか。

(委員一同) はい

(委員長) それで2点目の私立幼稚園の園児数が横ばいである理由なんですが、今、ご説明いただいたようにさまざまあるけれども例えばということで、これもたくさん上げ始めるとなかなか難しくなるかと思っておりますので、このままで宜しいでしょうか。

(委員一同) はい

(委員長) 3点目につきましては、これは少し追加というか 可能だというお話でし

たので、今後、市立幼稚園についてももっとチラシのあり様等を工夫していく努力を表明していただく形でここに追加していくと 具体的な文言につきましては事務局と相談して 委員長に一任していただければと思いますが、そのような形で宜しいでしょうか。

(委員一同) はい

(委員) 市立幼稚園の方ですけど、「時間延長預かり保育」というのは本当に必要だと思うんですが、やれない…それから「音楽・体操教室」とありますけど、音楽の方は土浦幼稚園の場合は、園長先生が非常に頑張っていて、ここ2～3年和太鼓で地域の人たちの人気をすごく集めているんです。音楽の方はそういう課外的なものでやっていますよね。ですから、やれないわけではないんです。

(委員長) 市立幼稚園もいろいろやっているんだということをもう少し書いてほしいということですか？

(委員) はい、せっかく先生たち頑張ったんですから。

(委員長) 事務局としてはいかがですか、その点。

(事務局) 具体的に見ますと、先生おっしゃるように、確かにそういった活動を行っているところですけども、全体的に見て、私立と市立の幼稚園を比較したときにどうしてもこの辺りがちょっと差になってそれが保護者の方に私立になびいているような傾向がありますので、全体として見たときにこういうことではないかということですので、個別に見たとき・具体的に見たときには確におっしゃった点ありますけど。ということで、全体で見て・総合して見てということでご理解いただければと思います。

(委員) 要するに私立の方は楽器を使う、市立の方は太鼓で和太鼓ですから…その辺がやはりちょっと人気の度合いが違うかも分からないけど子どもたちが非常に喜んでいるんですよね。分かりました、結構です。

(委員長) 少なくともこの委員会の認識としては市立幼稚園がいろいろ努力をしているということは了解しておきたいというふうに思います。ただ、今の部分についてはこのままということにさせていただきたいと思います。それではパブリック・コメントに対する回答としては、このような形で公表させていただきたいと思います。

それでもう一つ、この部分と関わりまして、これは私たちが前回の会の際に原案を作りました提言についてのご意見だったわけですが、こういったご意見に基づいて、最終的に資料5にございます提言を修正する必要があるかどうかということについて、ご議論いただきたいと思います。いかがでしょうか。少なくとも第一点目につきましては、この回答の中で原案の通りとさせていただきますということで、修正の必要はないということをお知らせしているわけですけども、他の点について『こういう意見が出たので、ここのところを修正すべきだ』というご意見があれば出して

いただいて、検討したいと思えますけれども。

(委員) 1つお願いします、始めのところで※印がありますが、これをこの文面の中ではっきり入れて宜しいのでしょうか…ということをお伺いしたい。普通の文章の中で、あえてカッコ書きで※ということを入れて。下の方でこういうふうにやっておけば 良いような感じがするんですけど。あるいはこれをやるならば、小さく頭のところでルビ的なものでやるのかなと思うんですけど、これいかがでしょうか。

(委員長) 文章の、例えば1ページの4行目にある注を示す※印ですね、これを大きく書くことについて、通例のこういった行政の審議会の答申等の文書として、このような形式がいかがでしょうか?ということなんですが、事務局の方としてはいかがでしょうか。

(事務局) こちらにつきましては、「」カッコで県が示した指針、公立小・中学校の適正規模についての指針、この「」カッコで示した部分について具体的なものが何かということで、その下に四角で囲った部分があるんですけど、それとの関連性を持たせるためにこういう表記をとったということで もちろん、委員の皆さんで、蛇足だということで省くことについて、私どもは異論ありません。ただこの関連性を示す意味でこういった表記をとったということでございます。

(委員長) 表記の問題だと思えますけれども…

(教育長) 委員長、大学の先生でいらっしゃるんですけど、論文などを書くときに「注1」とか、やはりそういう表記の方がよろしいですかね。

(委員長) 今申し上げようと思ったのですが、学術論文ではございませんので、見やすい方がよいと思います。そういう意味では大きく※印を書いていただいて、下に説明があるのだということがすぐに分かっていたらいいと思いますので、このような形で良いのではないかと思います、いかがでしょうか。

(委員一同) 異論の声なし

(委員長) はい、ではここの※印の部分はそのままの形でいきたいと思えます。他にご意見ございませんでしょうか。それではこの土浦市立幼稚園の適正配置の考え方についての内容をこれで確定させていただき、(案)を取らさせていただきます。よろしいでしょうか。

(委員一同) 異議なし

(委員長) はい、ありがとうございました。

(事務局) はい、ありがとうございます。それでは只今より、提言書を委員長より教育長にお渡ししていただきたく存じます。

(委員長) 昨年10月の第1回、2回…と本日まで5回の会議を開いて、土浦市立の幼稚園の規模や配置の問題について検討してまいりました。特に市立幼稚園の園児数が減少しています、その中で、幼稚園の現状とか園児数の変遷な

どを検討ながら、議論を進めてまいりましたが、特に土浦幼稚園といくぶん幼稚園につきましては園児数が急激に減少しておりますので、今後、統合を含めて、しかも土浦幼稚園の伝統には十分ご配慮いただきながら検討いただき、土浦市の幼稚園教育が発展するようこの提言も活かしていただければというふうに思います。よろしくをお願いします。

(教育長) どうもありがとうございます。

(委員長) はい、これでこの委員会の仕事の半分がどうにか終わったということでございます。今日のアンケートの結果を踏まえて今後、もう一つ、まあ残りの半分の方がちょっと大きいような気もいたしますけれども小中学校の適正規模・適正配置について検討を進めてまいりたいと思います。それでは、最後になりますけれども、事務局の方からその他として何かございますでしょうか。

(事務局) 第6回検討委員会の日程について

(委員長) はい、ありがとうございます。最後に何かその他として委員の皆さんから何かございますでしょうか。

(委員) 今の提言というのは、いつ頃からというのは決定しているのでしょうか。提言なので、今から検討ということですか？

(教育長) 只今、委員長さんから土浦幼稚園といくぶん幼稚園の適正配置についてのご提案をいただきました。委員の皆様方には本当に真摯な態度でこのようなご提言をまとめていただいたことについて、御礼申し上げたいと思います。それで今後、教育委員会といたしましては、この提言を踏まえて、土浦幼稚園といくぶん幼稚園の適正配置について、教育委員会として検討をするということになりますので、十分にご提言を踏まえて考えていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

(委員長) はい、宜しいでしょうか。このことは今後の小・中学校の問題も同じです。私たちが原則的な提言をし、それを踏まえて、その後、教育委員会の方で具体的なところを検討していただくということで。特に小・中学校の問題につきましては、道の長い作業になると思います。それでは以上をもちまして、会議を終わらせていただきたいと思います。ご協力ありがとうございました。

—互礼—

— 16時終了 —